

本案は、国際理解教育・開発教育を専門としない教員の方々にも取り組んでいただけるよう作成した学習指導案です。JICA 地球ひろばの展示ご見学後の事後学習を想定しての国際理解教育・開発教育の学習指導案です。学級や学校の状況に合わせて、是非ご利用ください。

SDGs(持続可能な開発目標)をテーマとした 国際理解教育・開発教育

1. 本指導案作成にあたって

本指導案は、地球市民全員で取り組む目標としてのSDGsを通して、日本を含む世界の課題をローカルな視点から自分ごととして考え、そして行動しようとする態度を育むことを目標に作成しました。他者を思いやり、自分のできることを考える姿勢は、グローバルな文脈だけではなく、誰にとっても大切な力です。広く現場の先生方に取り組んでいただけるよう、解説を充実させました。児童生徒や学級、学校の実態、先生方の伝えたいメッセージなどと合わせながら、自由にご活用ください。

2. SDGsとは

2015年9月「国連持続可能な開発サミット」で採択された2030アジェンダでは、持続可能な社会を実現するための重要な指針として、「誰も取り残さない」世界に向けた17の目標(ゴール)が持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)として設定されました。SDGsでは、開発途上国だけでなく、先進国も地球的課題に共に取り組むことが求められており、一人ひとりの取り組みが大切だとされています。

3. 対象

小学校高学年、中学生

4. SDGsと関係の深い現行学習指導要領

・小学校社会科 内容

6年生 (3)

・中学校社会科 内容

〔地理分野〕 (1)世界の様々な地域 エ 世界の様々な地域の調査

〔歴史分野〕 (6)現代の日本と世界 イ 国際社会における日本の役割

〔公民分野〕 (1)私たちと現代社会

(4)私たちと国際社会の諸課題

・総合的な学習の時間

第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1 配慮事項 (5)

5. 目標

国際社会が持続可能な社会を目指すために定めた「持続可能な開発目標 (SDGs)」、およびその達成のために解決しなければならない課題に関心を持つ。自分たちの生活を見直しながら、課題の解決に向けて自分たちができることを考える。

6. 指導計画

時	指導内容	学習活動	主な評価の観点
1	世界が抱える課題と世界が目指す SDGs	JICA 地球ひろば訪問	世界の現状、課題について関心をもち、できることに取り組もうとする 【関心・意欲・態度】
2 本 時	SDGs	SDGs 達成のために私たちができると話合い	日本を含む世界の問題について、私たちができると考え、説明することができる 【思考・判断・表現】

※本案の指導計画について

本案は、JICA 地球ひろばの訪問と本時 1 時間分という設定で作成した学習指導案です。JICA 地球ひろば訪問を世界の課題について気づくための導入とし、その事後学習として本案を利用していただくことを想定しています。事後学習に多く時間を確保できる場合については、本案 9. で提案していますので、ご参照ください。

7. 本案の使い方

本授業では、児童生徒や学級、学校の実態に合わせて授業を実践していただけるよう、展開を①と②のそれぞれ 2 つずつ提案しています。どちらの展開を行っていただいても、まとめて自分ごととして SDGs を考えるように指導案を作成しておりますので、まとめは 1 つだけとなっています。それぞれのねらいと内容は下表のとおりです。

段階・ねらい	内容
導入：地球ひろばで見た展示を通じて SDGs について振り返る	地球ひろばの展示から SDGs

展開①SDGsの達成にはひとり一人の協力・参画が不可欠であることに気づいてもらう	みんなで参加できるSDGsプロジェクトを考えよう
展開②SDGsのキーメッセージである「誰も取り残さない」について身近なテーマで考える	身の回りから、SDGsの「誰も取り残さない」を考えよう
まとめ	明日からできることを考えよう

8. 評価基準

- ・世界の課題について関心をもち、できることに取り組もうとする

【関心・意欲・態度】

- ・日本を含む世界の問題について私たちができることを考え、説明することができる

【思考・判断・表現】

9. 授業に必要なもの

<展開①>

- ・資料1～2×人数
※資料1題名のSDGs inの後の空欄に、周りの地域名、または市区町村名を入れて配布してください。
- ・資料3～5
- ・大きめに印刷した資料2（B4以上の大きさが望ましい）×班の数
- ・地球ひろば訪問の際にもらった資料
- ・くじ引きの道具
- ・追加資料等（必要に応じて）

<展開②>

- ・資料7×班の数
- ・資料8×人数

10. 本時の展開

段階	学習内容	指導上の留意点、【評価◎】
----	------	---------------

<導入>

導入②	1. <u>地球ひろばの展示を振り返り、SDGsの内容を確認する。</u> ① 地球ひろばのSDGs達成状況パネルの写真を提示する。 ② 「何についての展示でしたか？」と聞き、各国のSDGs達成状況を表していたパネルだったことを確認する。	・児童生徒から発言が出てこない場合には、地球ひろばでの配布資料を見るように指示したり、ヒントを出したりしながら、発
-----	---	---

5	<p>③ 「SDGs とはどのようなゴールだったか覚えていますか？」と聞き、SDGs の要点(導入①を参照)を確認する。</p> <p><展開①の場合></p> <p>④ 「日本の達成状況はどうでしたか？」と聞き、日本の達成状況を確認する。 ※ 本 案 10. ベ ル テ ル ス マ ン 財 団 SDG INDEX&DASHBOARDS (SDGs 達成状況報告書)参照</p> <p>⑤ 「日本が達成できていないゴールについて皆さんに考えてもらいます」と指示する。</p>	<p>言を引き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が SDGs について覚えていない場合には、授業者が正解を伝え、どのようなゴールだったのかを確認する。 ・日本は「質の高い教育」「安全な水とトイレ」「産業と技術革新基盤」3 目標以外の 14 目標が未達成(2016)、その 14 個のうち日本と世界とのつながりについて考えやすい 6 つのゴールについて考えてもらう、という流れで、展開①に進む。
---	--	---

<展開①>

<p>展 開 ①</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>みんなで参加できる SDGs in (地域名) プロジェクトを考えてみよう</p> </div> <p>1. <u>SGDs のゴール達成に向けた地域に暮らす全ての人々が参加できるプロジェクトを班ごとに考える。</u></p> <p>① 4~6 人を 1 班とし、分かれる。</p> <p>② ワークシート(資料 1、2)を配布する。</p> <p>③ ルール説明をする。 (ルール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに決められた SDGs のゴールを達成するために、地球ひろばで配布された資料やワークシート(資料 1)を参考に学校の周りに暮らす全ての人々が参加できるような地域プロジェクトを考える。 ・ワークシートに沿ってプロジェクトを考えていく。 ・班での話し合いの後、班ごとに発表するので、話し合いの時間の中で各自準備しておく。 <p>④ 例の提示をする。(資料 6 参照)</p> <p>⑤ 児童生徒自身が関心のあるゴールを選んでもらいグループ分けを行う(もしくはくじ引きで決めても良い)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトづくりにあたっては、教科書、新聞を利用する他本案の参考資料などの追加資料の提示、図書館・パソコンルームでの授業実施をしてもよい。 ・全員が参加できるプロジェクト作成だと強調する。特定の人だけがかわる解決案を考えている班には、「このクラスのみみんなが参加できる？」などと聞き、解決案の再考を促す。 ・児童生徒の実態に合わせて、ワークシート(資料 1)の解説を行ってもよい。 ・例の提示は資料 6 を参考にする。児童生徒が身近に感じるような取り組み設定を意識した例を提示する。
----------------------	--	--

8	<p>⑥ 班ごとに話し合いを進め、ワークシート(資料 2)にまとめる。</p> <p>I. 各自が持ってきた地球ひろばの資料をもとに、思いつくことをワークシートに書く (3)</p> <p>II. 思いついたことを共有 (2)</p> <p>III. 大きく印刷した資料 2 を配布</p> <p>IV. 班での話し合い ※インターネットや本で調べ学習が行える環境の場合には、この時間に調べ学習を行う。 (・児童生徒が調べ学習に時間を費やしすぎないように、必要に応じて、時間設定や本案 11. を参考にした URL の提示を行う。)</p> <p>V. 決まったことを大きめに印刷された資料 2 にまとめ、発表の準備</p>	<p>・話し合いの流れはⅢまでは授業者が進行する。</p> <p>・話し合いが進んでいない班については、アドバイスカード(資料 3～5)を渡す。ただし、始めの 5 分間は児童生徒たちだけで班で考えさせる。</p> <p>・話し合いが活発に行われるように、机間指導を行う。</p> <p>・紙にまとめ終わっていない班には、口頭で付け足すように指示する。</p> <p>◎国際社会の問題について、私たちができることを考えることができる。【思考・判断・表現】</p>
20	<p>⑦ クラス全体に向けて、考えた地域プロジェクトの発表</p> <p>※異なるゴールの地域プロジェクトが似ている内容の案を提示したときには、ゴールが互いに関連し合っていることに触れる。また、似ているプロジェクト内容が出なくても、考えられるプロジェクト内容を例示し、ゴールの関連性について触れてもよい。</p>	<p>・発表の際には、グループの発表ごとに質疑応答の時間を設ける。</p> <p>◎国際社会の問題について自分で考えたことを説明できる 【思考・判断・表現】</p>
10		

<展開②>

展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> 写真から身近な「誰も取り残さない」を考えてみよう </div>	
②	<p>1. エチオピアで撮られた写真の文字の意味を考える。</p> <p>① 今日はワークを通して SDGs の「誰も取り残されない」について考えることを伝える。</p> <p>② 4～6 人を 1 班とし、分かれる。</p> <p>③ 外国で撮られた写真(資料 7)を配布する。</p> <p>④ 写真はエチオピアで撮られたものであることを伝える。</p> <p>⑤ 写真の文字が何と書いてあるかを班で話し合い、考える。 (5)</p> <p>⑥ 話し合いの結果をクラス全体で共有する。</p>	<p>・資料はなるべくカラーを推奨するが、モノクロでもよい。</p> <p>・話し合いの様子を見るために、机間指導を行う。</p> <p>・話し合いが進んでいない班には、看板の周りの風景などにも注目するように声かけをし、班活動が活発に行われるようにする。</p>

13	<p>⑦ 「地すべり警告」の看板であることを伝える。</p> <p>2. 文字が読めず「取り残されている人」を考える。</p> <p>① 地すべりの例のように、文字が読めないために危険や不便な思いをしている人は SDGs の目標にある「取り残されている人」であることを確認する。</p> <p>② 世界には文字が読めず「取り残されている人」がいることを確認し、世界の文字の読めない人の数を伝える。</p> <p style="text-align: center;">※ 2016年 約7億5千万人(15歳以上) (参照 http://data.uis.unesco.org/)</p> <p>③ ワークシート(資料8)を配布する。</p> <p>④ もし、自分が文字を読めないとしたら、日常生活のどんなところで困るかを班で話し合う。</p> <p style="margin-left: 2em;">I. 班で話し合う。 (10)</p> <p style="margin-left: 2em;">II. 話し合いをそれぞれワークシートにまとめる。</p> <p style="margin-left: 2em;">III. 班で出た意見を発表する。</p> <p>⑤ 日本にいる人の中にも文字が読めなくて「取り残されている人」がいることを全体で確認する。</p>	<p>・導入で確認したSDGsの「誰も取り残さない」という目標を改めて意識させる。</p> <p>・班での話し合いが活発に行われるように、机間指導する。</p> <p>・話し合いが進んでいない班には、「薬を買うときはどうだろう？」などと具体的な場面を提示する。</p> <p>・話し合いの中で、ワークシートにまとめるように指示する。</p> <p>・「みんながエチオピアで看板に悩んだように、日本で文字が読めなくて「取り残されている人」はいるかな？」と全体に発問し、日本にいる外国人などに目を向けさせる。また、そのとき、障がいのある方についても触れてもよい。</p>
20		
5		

<まとめ>

ま と め 7	<p>1. <u>ワークシート(資料2 or 12)に、今日気づいたことや考えたこと、明日から自分ができそうなことまとめる。</u></p> <p>※まとめた自分ができそうなことを、どれくらい達成できたか確認するためにレポートなどを後日提出させてもよい。</p>	<p>◎国際社会の問題について自分で考えたことを説明できる</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
------------------	---	---

11. 展開についての補足

本案の指導計画よりも多くの授業時間を確保できる場合には、本案の展開に加えて、調べ学習の時間を増やすことで、より充実した国際理解教育・開発教育の実践となります。以下が指導計画の提案です。

<展開①>

時	指導内容	学習活動	備考
1	国際社会が抱える課題	JICA 地球ひろば訪問	
2 本 時	SDGs	ひろば訪問での気づきや疑問の共有、SDGs 達成のために私たちができることの話し合い（発表は行わず、まとめにおいて、次回から調べ学習をすることを予告する）	・「各プロジェクト予算は1億円」「プロジェクト期間は 20xx 年から5年間」など予算やプロジェクト期間を設け、費用・時間の使い方を含めてプロジェクトを立案してもよい。
3	SDGs に向けた日本の取り組み	インターネットや新聞、書籍、機関紙などを用いた、自分たちが設定したゴールと同じゴールに向けた NGO 団体や国、学校、企業等の活動計画・活動事例についての調べ学習	・パソコン室や図書館などを利用して調べ学習を行う。 ・調べ学習にあたり、インターネットや本などの情報媒体ごとのメリットやデメリットに触れてもよい ・日本だけでなく他国の事例をしらべてもよい。
4 (4~5)	SDGs に向けたさまざまな取り組み	調べ学習をもとにした地域プロジェクトの検討と発表	・検討により変更した点や変更理由、参考にしたものについても発表するように指導する。

2 時間目では発表の時間を設けず、同じゴールに向けた団体や国の活動についての調べ学習を行い、4 または 5 時間目にて班でつくった地域プロジェクトや他の団体の活動についても発表するという指導計画である。

調べ学習の際には、他の団体や国の活動から参考にできるところを探し、プロジェクトの検討を行うように提案する。

発表については、模造紙などの大きな紙にまとめて、ポスターセッション形式で行ってもよい。まとめた模造紙は廊下等に掲載してもよい。また、学年に複数のクラスがある場合は、各クラスで最も実現可能性が高いプロジェクト案を一つ選び、学年ま

とめての発表会を実施したり、学年便りに掲載したりしてもよい。

<展開②>

時	指導内容	学習活動	備考
1	国際社会が抱える課題	JICA 地球ひろば訪問	
2 本 時	SDGs	身の回りの「誰も取り残さない」を考える	・授業の最後に次回 は「誰も取り残さない」 目線で学校を見直す ことを予告する。
3 (3~4)	身の回りの SDGs	学校の中にある施設やモノで 誰かを取り残してしまうものを 考え、自分のできることを検 討・発表 (学校に外国からのお客さん が来たら、車いすのお客さん が来たら、などと場面設定を して、学校を見直してもよ い。)	・学校のマップなどを 見ながら考えさせても よい。また、学校を探 検し、見つけられても よい。 ・「施設やモノを変える のは時間がかかるけ ど、みんなならどんな ことが明日からでき る？」などと声かけし、 学校をみんなにとって より良い場所をするた めにできることを考え させる。

2 時間目の日常生活を「誰も取り残さない」の視点で考える活動から、学校生活を見直す活動につなげるという指導計画である。

3 時間目の展開では、上記のように、場面設定をして、生徒に考えさせてもよい。また、発表をポスターセッション形式で行い、発表後そのポスターを廊下に掲示してもよい。

12. 参考資料

【SDGs】

- 外務省 SDGs(持続可能な開発目標)持続可能な開発のための 2030 アジェンダ
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html
- 国連広報センター SDGs ロゴ

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/

- ユニセフ SDGs17 の目標と 169 のターゲット
<https://www.unicef.or.jp/sdgs/target.html>
- ユニセフ 「持続可能な開発目標」を伝える先生のためのガイド
https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/pdf/unicef_SDGs_pamph.pdf
- ベルテルスマン財団 SDG INDEX&DASHBOARDS (SDGs 達成状況報告書)
http://www.bertelsmann-stiftung.de/fileadmin/files/BSt/Publikationen/GrauePublikationen/SDG_Index_Dashboard_full.pdf

【JICA 国際理解教育・開発教育】

- JICA 地球ひろばホームページ 先生お役立ちサイト
<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/index.html>

【目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 関連】

- 経済産業省 家庭エネルギー消費の実態
http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/general/actual/
- 節電ネット どうして節電しないといけないの？
<http://www.setsuden.net/start/htm/vol01.html>

【目標 8 働きがいも 経済成長も 関連】

- World Vision 児童労働 子どもたちが生きる現実
<https://www.worldvision.jp/news/advocacy/20150611.html>
- フェアトレードジャパン フェアトレード
<http://www.fairtrade-jp.org/>

【目標 12 つくる責任 つかう責任 関連】

- 農林水産省 食品ロスの削減に向けて
http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/attach/pdf/1612_27_4-24.pdf

【目標 13 気候変動に具体的な対策を 関連】

- 全国地球温暖化防止活動推進センター 家庭からの二酸化炭素排出量
http://www.jccca.org/chart/chart04_06.html
- 環境省 スマートムーブ
<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/smartmove/about/index.html>
- 環境省 ウォームビズ
<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/warmbiz/>
- 環境省 エコドライブ
<http://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/ecodriver/>

【目標 14 海の豊かさを守ろう 関連】

- EIC ネット 海洋汚染のメカニズム
<http://www.eic.or.jp/library/ecolife/knowledge/earth08a.html>
- 静岡県 水利用の現状
<http://www.pref.shizuoka.jp/kankyou/ka-060/mizu-genkyou.html>
- 環境省 生活排水読本
<http://www.env.go.jp/water/seikatsu/>

【目標 15 陸の豊かさを守ろう 関連】

- 国連食糧農業機関 世界森林資源評価 2010
http://www.jaicaf.or.jp/fao/publication/shoseki_2010_4.pdf
- 地球温暖化教室 森林伐採
http://www.gwarming.com/link/link2/forest_b.html
- ネットワーク「地球村」 5分でわかる森林破壊
http://www.chikumura.org/environmental/earth_problem/deforestation.html